「活動の概要と研究成果」

NO.J2404

活動題目：「対立を避ける思考」
―インド・シッキム州における宗教的混淆の社会人類学的研究

所属：東京都立大学大学院 人文科学研究科 社会人類学分野 博士後期課程

氏名：山岸　哲也

本研究は、インド・シッキム州において異なる宗教を信仰する人々に関して、彼らの混淆的な宗教実践がどのように共存という内的平衡をもたらしているのかについて、現地調査をもとに考察することを目的としていた。さらに、様々な背景を持つ人々が対立のきっかけともなる差異を抱えつつも均衡的に集住している様相から、当該地域で独自に醸成されてきた「対立を避ける思考」を明らかにすると同時に、それがグローバルかつ権威的な宗教によって「上から」包摂されるなかでどのように発現しているのかを描き出すことを目指していた。それを通じて、当該地域の混淆的な宗教と人々の内的平衡の関係性を明らかにすることを試みた。

調査では、現地の研究機関における貴重な資料・書籍の収集によって、仏教は州議会で議席が確保されており政治に大きな影響力を持っていること、ヒンドゥー教は他宗教を人口比で圧倒していること、キリスト教は活発な改宗活動を展開していることなどが明らかになった。村落地域における調査では、人口や世帯数、社会組織などの基本的情報を収集したうえで、bonthing、jhakri、mata、lamaという4者の宗教的職能者の信仰や儀礼を記録し、かつて行われていた動物供犠が「上から」禁止された経緯について聞き取った。人々のエスニシティによって社会的地位が異なるためにアイデンティティ・ポリティクスが活発であるが、村落地域では日常的な協力関係が築かれているうえ、宗教的職能者たちも互いの信仰や儀礼を深く理解し時に協力し合っていることがわかった。「対立を避ける思考」については、かれらは権威的な仏教によって「上から」包摂されそれに従いつつも、自らの混淆性を前提とすることで互いの差異と同一性を同時に併せ持つことが可能となっており、だからこそ対立の要因となりうる差異に基づく排他も同一性に基づく包摂も志向しない思考であると結論付けた。